

リョーサン菱洋

PROMISE BOOK

統合後の私たちの、お客様へのお約束

Contents

プロミスブックとは	4
統合の背景	5
経営統合により、進化したこと	6
具体例	7
今後強化していく3つの柱	8
これからも変えないこと	9
事業内容	10
経営層の顔ぶれ	11
サステナビリティ	12
財務情報・株式情報	14

想いに応える。
ニーズに応える。
変化に応える。

時代がどんなに変わろうとも、
「仕事」の本質は変わりません。

それは「自分以外の誰かの役に立つこと」

今、目の前にいる人、
そして、その先にいる人達の想いや
ニーズ、世の中の変化に対して、
柔軟に、誠実に応え、役に立つこと。

それこそが、
社会を良くしていく「仕事」であると信じ、
私たちは動き続けます。

プロミスブックとは

2026年4月1日、株式会社リョーサンと菱洋エレクトロ株式会社の2社は
統合を経て、リョーサン菱洋株式会社として、生まれ変わりました。

この統合により、私たちが、新たにどのような価値をご提供できるようになったのか、
そして、これからどのような未来を実現していくのかを表明し、
お客様とお約束することが、このプロミスブックの目的です。

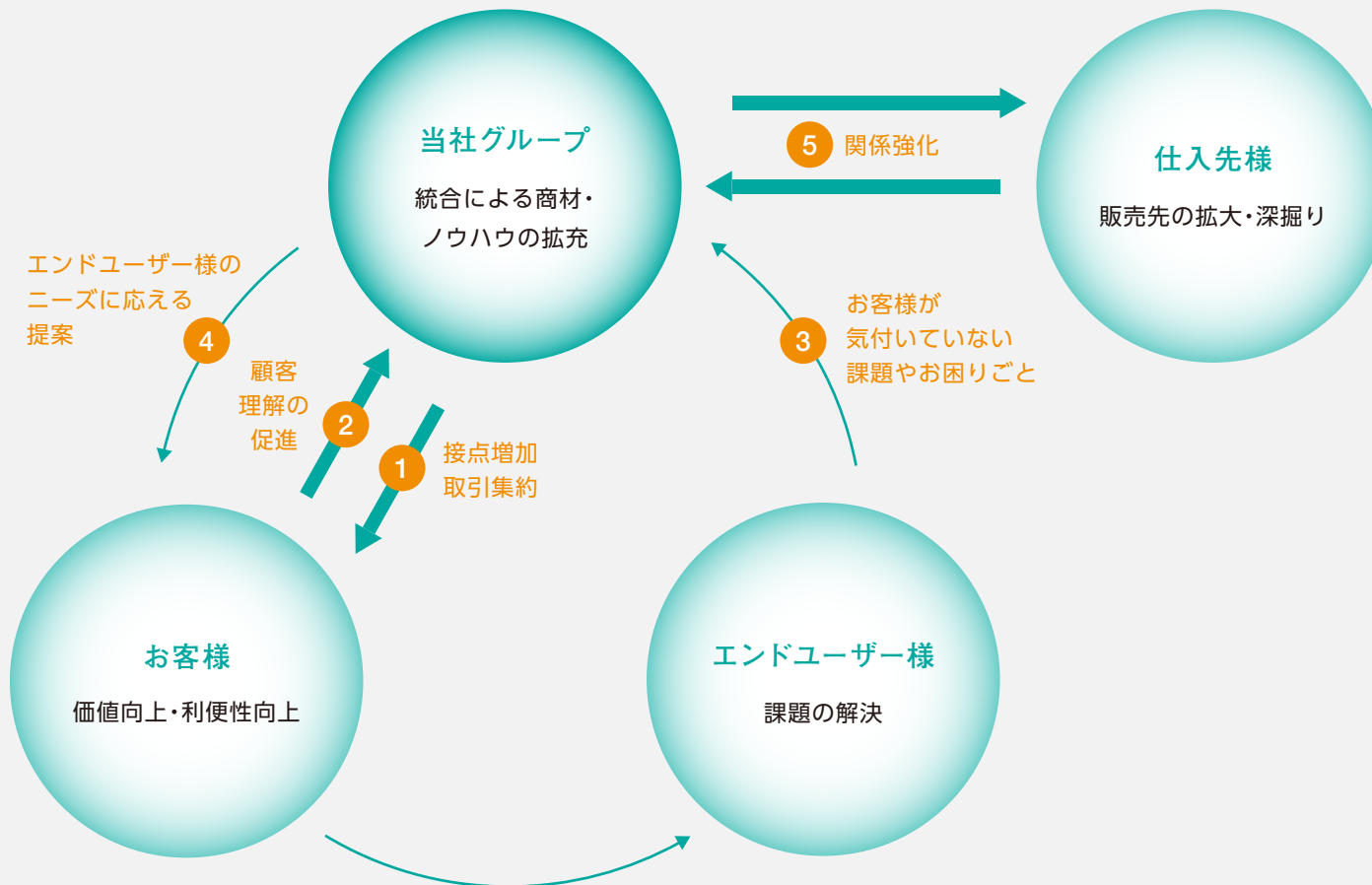
ここに記した約束を、私たちは、日々の行動と成果によって果たしてまいります。
これからのリョーサン菱洋株式会社に、どうぞご期待ください。



統合の背景

私たちは、株式会社リョーサンと菱洋エレクトロ株式会社2社の情報と知恵をかけ合わせ、全社的に共有・活用することで、お客様に対して、より高い付加価値を提供することができると信じ、統合にいたしました。

バリューチェーン全体への価値向上:



お客様

単なる「商品」の提供にとどまらない、
お客様の事業成長のための本質的なご支援

量

実績の増加によるニーズへの対応力

両社の、長年にわたる大手企業をはじめとした豊富な取引実績、AI、DX に欠かせない商材の大規模な取り扱いを掛け合わせることで、より多くお客様ニーズにお応えすることが可能になりました。

質

知見の深さによる変化への対応力

製造業界に関する知見とお客様への理解を土台に、ソリューション事業における柔軟な提案力を掛け合わせることで、今後、業界で起こり得る変化も見据えた、より深いご提案が可能になりました。

カルチャー

経営インフラを一本化し、「量の拡大」と「質の向上」をより強化できる仕組みの整備や、
貢献の喜びを実感しやすい風土を整えました。

経営統合により、進化したこと（具体例）

Before

お客様が求める商品のご提供にとどまっていた

事例
A

半導体製造装置メーカー様へ、
装置へ組み込む
電源モジュールをご提供

After

量・質・カルチャーの強化により、お客様の事業成長を共に考えるパートナーへ

GPU 環境構築と AI 活用を掛け合わせたご提案で、業務効率化を推進

“製品の付加価値をさらに高めたい”というニーズと、“解析業務など、エンジニアの負荷が重い”という課題をヒアリングし、GPU コンピューティング環境と AI による業務効率化をご提案。本来注力すべき付加価値創出の時間を生み出し、製品開発力の強化に貢献しました。

事例
B

車載部品メーカー様へ、
半導体 (MCU) をご提供

工場全体の生産性向上を実現

現場の生産性が低いという課題をヒアリングし、従来の高機能・高価格なコンピューター設備の見直しをご提案。最適な性能とコストパフォーマンスを備えた産業用コンピューターや、工場内の作業効率を高めるモニターを導入することで、工場全体の DX、お客様の生産性向上を実現しました。

事例
C

取り扱いができる、
限られた商品情報を
オウンドメディアやサイト内で発信

オウンドメディア「テクラボ」で最新技術を発信

両社の知見を掛け合わせることで、AI・ロボティクスなどの注目の先端技術や商品情報を、お客様の“お困りごと起点”で発信することが可能になりました。

今後強化していく3つの柱

1

営業・人事・ITの改革
によるお客様接点の拡大

3つの改革を通じて、お客様接点の量とニーズ把握・分析の精度を高め、変化を確実に捉えながら、よりの確で一步先を見据えた提案をお届けできる体制へと進化します。

2

顧客基盤を活かし、
ソリューションを武器にした
さらなるシナジー創出

統合で広がるお客様基盤から得られるニーズを活かし、IT機器やシステムの導入から運用までを一気通貫で支えることで、お客様の負担を軽減し、課題解決へ向けたスムーズな立ち上げを支援します。

3

AI社会で価値を
発揮する独自性の
創出

当社ならではの知見と技術を磨き、お客様の強みを最大限に引き出すAI活用を追求することで、未来の価値創出とともに実現します。

これからも変えないこと

貢献

協働

賞賛

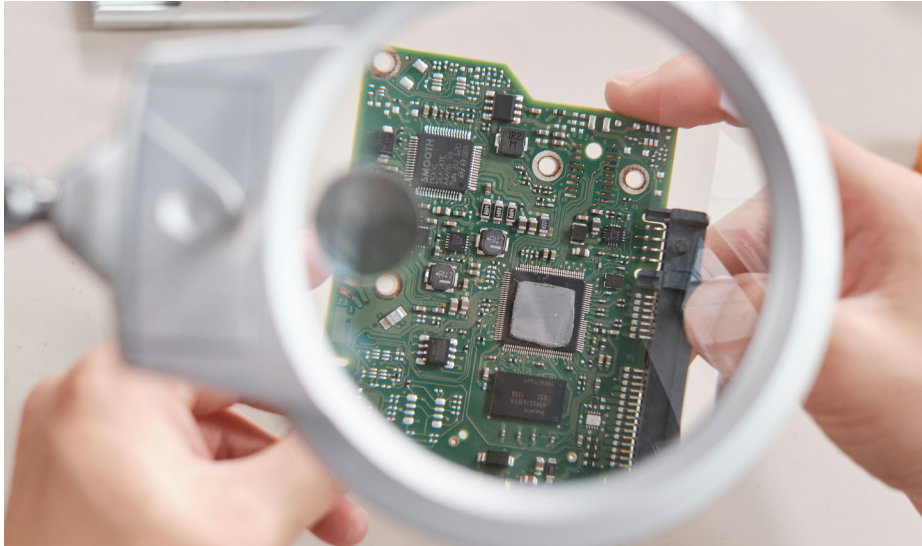
「貢献」とは、自らの前向きな行動によって、お客様、お取引先様、株主様、そして仲間のために役に立つこと。

「協働」とは、チームとしての勝利を生み、ひいては自身の成長を促すために、独りよがりではなく、共に考え、実行すること。

「賞賛」とは、チームに総合力をもたらすために、小さなことでも、プラスの価値に対して褒め、称え合うこと。

私たちが以前から掲げている、この3つの行動指針は、これからも変わらず大切にします。

事業内容



デバイス事業

家電や自動車をはじめ、さまざまな製品に組み込まれる半導体や電子部品を提供しています。世界トップメーカーとの強力なリレーションのもと、幅広い製品を取り扱い、お客様の製品価値向上に貢献しています。半導体はあらゆる産業を支える基盤技術であり、その重要性は年々高まっています。



ソリューション事業

サーバーやネットワーク機器などのIT製品の販売に加え、設置・運用保守、コンサルティング、アプリケーション開発などのサービスを通じて、AIやITの活用を提案し、お客様の課題を解決します。企業が競争力を高めていくうえで、AIやITは欠かすことのできない重要な技術です。

経営層の顔ぶれ

〈リョーサン菱洋株式会社〉



中村 守孝
代表取締役 会長執行役員



稲葉 和彦
代表取締役 社長執行役員



遠藤 俊哉
取締役 常務執行役員
デバイス営業本部長



大橋 充幸
取締役 常務執行役員
アカウント営業本部長



高橋 則彦
取締役 常務執行役員



佐野 修
取締役 常務執行役員
技術本部長



猪狩 裕之
取締役 常務執行役員
SCM本部長



辻井 幸弘
取締役 執行役員
営業企画本部長



青木 良行
取締役 執行役員
ソリューション営業本部長



高田 信哉
取締役(非業務執行)

執行役員

- 圓尾 俊介 デバイス営業本部 第一統括部長
- 堀江 浩二 デバイス営業本部 第二統括部長
- 中村 匡 デバイス営業本部 第三統括部長
- 落合 秀治 デバイス営業本部 第四統括部長
- 阿黒 大輔 デバイス営業本部 海外統括部(海外駐在)
- 要津 正輝 デバイス営業本部 海外統括部
- 関澤 正人 ソリューション営業本部 第二統括部長
- 小泉 修司 アカウント営業本部 第一統括部長
- 高橋 敬 アカウント営業本部 第二統括部長
- 小山 哲也 アカウント営業本部 第三統括部長

監査役

- 弘岡 啓治
- 田端 慎吾

〈リョーサン菱洋ホールディングス株式会社〉

- 中村 守孝 代表取締役社長執行役員
- 稲葉 和彦 代表取締役副社長執行役員
- 遠藤 俊哉 取締役常務執行役員
- 高橋 則彦 取締役常務執行役員
- 佐野 修 取締役常務執行役員
- 高田 信哉 社外取締役
- 川辺 春義 社外取締役
- 金子 好久 社外取締役
- 脇 清 取締役(常勤監査等委員)
- 小川 真人 社外取締役(監査等委員)
- 大井 素美 社外取締役(監査等委員)
- 福田 佐知子 社外取締役(監査等委員)
- 高橋 正行 執行役員
- 田中 葉子 執行役員

サステナビリティ

サステナビリティに関する基本的な考え方を「サステナビリティビジョン」および「サステナビリティ基本方針」に示し、独自の取り組みを行っています。

● サステナビリティ 基本方針

リョーサン菱洋は、持続可能な経済成長と地球規模の環境問題をはじめとする、さまざまな社会的課題の解決に取り組めます。社会にとっての安心・最適を創り出す企業を目指し、お客様のみならず各ステークホルダーと、「貢献・協働・賞賛」に基づくコミュニケーションを活発に行い、サプライチェーン全体でサステナブルな未来を築いてまいります。

● サステナビリティビジョン

「全てのステークホルダーへの継続的な正しい貢献」

● 社会貢献活動

当社は、サステナビリティの取り組みとして地域社会との共生を重視し、文化財の保全、スポーツ振興などを通じて社会貢献に取り組んでおります。これらの活動を通じて、企業市民としての責任を果たし、豊かで活力ある社会づくりに貢献してまいります。

ビジョン・コンソーシアム

視覚障がい者の方たちを取り巻く社会課題に向き合い、DEI (Diversity, Equity&Inclusion) 推進を促すプラットフォームとなることを目指す趣旨に共感し、ビジョン・コンソーシアムへ参画しています。視覚障がい者支援につながるソリューションの企画、展開を視野にいれ、コンソーシアムがゴールに見据える「多様性を認め合えるインクルーシブな社会」の実現を目指してまいります。



世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」保全活動

和歌山県が主催する世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全と活用を図る「10万人の参詣道環境保全活動」の趣旨に賛同し、2019年より「熊野古道道普請ウォーク」に参加しています。



スポーツスポンサー活動

※2026年4月時点

スポーツスポンサーやアスリート社員の活動を通じて、競技振興や地域活性化を図り、応援するリーグやチーム、選手たちと共に成長してまいります。



T.LEAGUE
卓球リーグ



B.LEAGUE
男子バスケットボールチーム
名古屋ダイヤモンドドルフィンズ



W LEAGUE
女子バスケットボールチーム
東京羽田ヴィッキーズ

個人スポンサー

▼ 女子卓球 長崎 美柚 選手



▼ 男子卓球 小林 広夢 選手



アスリート社員採用

試合や練習以外の時間にパートナー企業で働き、PRや社内交流に協力する制度を導入。

▼ 東京羽田ヴィッキーズ 奥田 花さん



▼ 社内講演会の様子



財務情報・株式情報

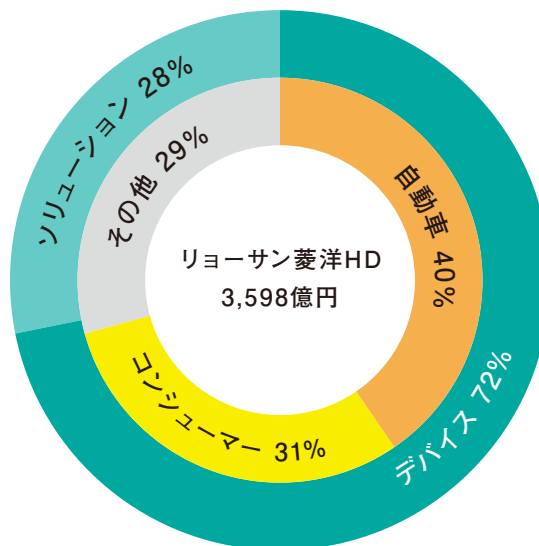
経営成績と事業別概況

2025年3月期

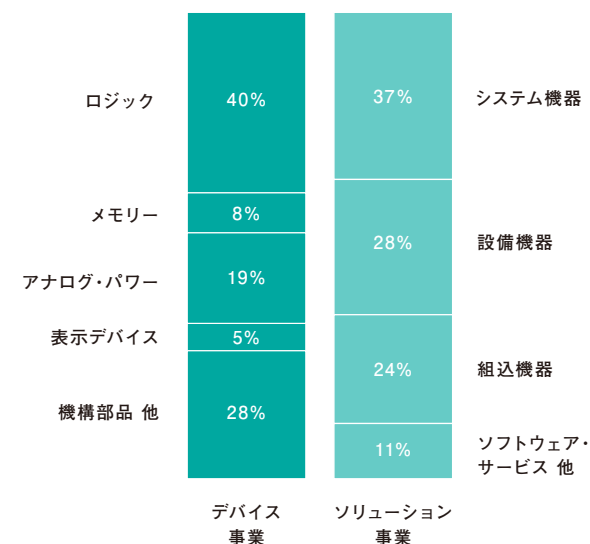
営業利益 : 85.4億円(2.4%)

経常利益 : 71.3億円

当期純利益 : 93.9億円

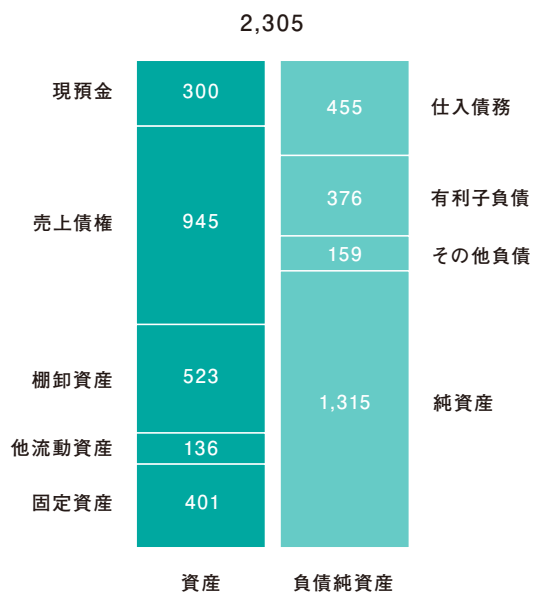


品目別 デバイス事業・ソリューション事業



貸借対照表

2025年3月末
(単位:億円)



主要財務指標

自己資本比率 : 57.0%

流動比率 : 218.3%

自己資本利益率(ROE) : 7.1%

総資産回転率 : 156.1%

1株当たり情報

純資産額 : 3280.12円

当期純利益 : 234.38円

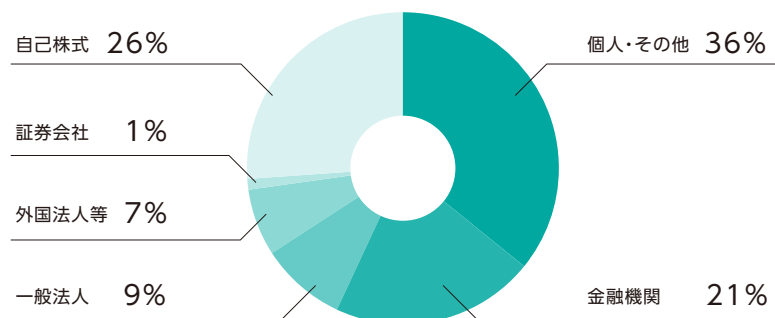
年間配当額 : 140円

株式情報

2025年9月末

上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	167A
発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式総数	54,000,000 株
株主数	57,837 名

所有者別の株式分布状況



株主名	持株数(千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	4,983	12.43%
エス・エッチ・シー(有)	2,118	5.28%
日本生命保険相互会社	1,382	3.45%
住友生命保険相互会社	1,237	3.09%
(株)日本カストディ銀行(信託口)	1,099	2.74%
(株)三井住友銀行	987	2.46%
(株)三菱UFJ銀行	827	2.06%
マリアート(株)	531	1.33%
(株)シーブ商会	523	1.31%
JP MORGAN CHASE BANK 385781	485	1.21%

- (注) 1. 当社は、自己株式を13,898,507株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を排除して計算しております。
 3. 上記大株主のうち、信託銀行2行の持株数は全て信託業務に係る株式です。

